

## 富士川中流域アユを育む・清流プロジェクト 第2回 WG アユに関する勉強会2（現地）

日程：令和4年10月26日（水）14:00～

場所：現地勉強会 ①富士川左岸・身延町某所

②富士川右岸・身延町某所

③富士川右岸・南部町某所

④富士川左岸・南部町某所

意見交換会 南部町南部分庁舎内中央公民館（2F）

題目：現地勉強会 現地にて、アユにとって良い状況、良くない状況の解説・確認

意見交換会 現地で見た状況の確認、感想等

講師：山梨県水産技術センター 2名

参加者：プロジェクト参加機関 26名／6機関

### （1）現地勉強会

#### ①富士川左岸・身延町某所

##### 【解説】

- ・河床材料の大きさや瀬の状況からは、アユの釣果が期待できる場所。以前は良かったが、現在は、釣果が上がっていない。
- ・アユが生活するためには、大きな石と瀬淵構造が必要であるが、淵が少ない地点である。
- ・この地点は河床に砂が堆積しており、平常時の流量でも常に砂が巻き上がっている。そのため、藻類の剥離、濁りによる光合成阻害が発生しており、アユの生息地としては適していないと考えられる。



##### Q&A

Q：良い状態だった時はどのような状態だったのか。

A：河床に砂利が多かった。砂より大きな粒径で構成されていた。

Q：いつから釣れなくなったのか。

A：富士川本川は平成22年、23年あたりから釣れなくなっている。濁りが多くなったと感じる。

Q：砂が巻き上がってしまうのか。

A：そうである。昔はよい瀬淵があったがこの10年間で消失した。

Q：餌が少ないという事は、サイズが小さいアユが採れるのか。

A：そうである。この場所では痩せて小さいアユが採れる。

Q：環境を改善するために河床勾配を緩くすることで、流速を遅くすることは良い方策か。

A：砂が流れない場所があればアユが生息すると考えられ、流速よりも流量がポイントで



<提供:山梨県水産技術センター>

ある。

Q：カワウのコロニーが存在し100羽くらい確認されている。そのような影響はあるか。

A：あると思われる。甲府盆地でのコロニーは減ってきているが、静岡県側から飛来している可能性も考えられる。

## ②富士川右岸・身延町某所

### 【解説】

- 本日の3地点の中では、アユにとって2番目に良い環境。本年は少し釣果があった。
- この地区は、流砂は少ないが河床に25cm以上の大きな石もあまりなく、こぶし大の石が多い。しかし、その中にも大きな石があるのでそのような環境に生息していると考えられる。
- この地区は、淵が無く地形の多様性がない。瀬も白泡が少なくアユの逃げ場がない。



### Q&A

Q：地形の状況はどうか。

A：淵が無いため、アユの休み場がない。

Q：環境は良くなったのか。

A：昨年まではこの地点は釣果が0であったが、砂が減少し砂が流れる状況が若干改善した様子。今年は釣果があった。

Q：アユにとっての環境をよくするためには何が必要か。

A：みお筋横の陸地部に大きな石が転がっているため、それを河道内に戻しアユの休息場を作る方法が考えられる。単体では流失する可能性があるため、石組やポイントを絞って集中した設置をした方がよいと考えられる。

## ③富士川右岸・南部町某所

### 【解説】

- コンスタントに釣果が上がっている地点である。
- 砂が流れておらず、河床材料が大きい地点である。
- 瀬淵構造が連続している。
- 支川からの流入があるため濁りにくい川であり、支川が出水時のアユの退避場所になっている。
- 昨年度は砂分が多かったが、本年は石分が多くなった。
- 上記の様な状況から、アユの生息に適した場になっていると考えられる。



- ・今も、アユが藻類を食む様子が見られている。(勉強会当日、現地にて確認)

#### Q & A

Q：勾配の変化というか流れの緩急と大きな石があることがアユにとって良い状態という事か。

A：そのとおりである。それに加えて、白泡の浅瀬も要因である。

Q：この場をベストの状態にするために必要なことはなにか。

A：深い箇所・淵がない。初期のアユは淵で生活を行う。淵が不足しているため、大きな石をうまく使ってそのような環境を作ると良い。



アユの食み跡<提供:山梨県水産技術センター>

#### ④富士川左岸・南部町某所

##### 【解説】

- ・富士川は狭く小さい川ではあるが、流砂もなく大きな石もあり濁っておらず、さらには水量も水深もあるため、アユにとって良い川で、釣果があがっている。
- ・この場所を案内したのは、アユがいると川の賑わいが戻る様子を見せたかった。特に昨年は、11月までアユ釣りの客が来ていた。本日も平日の夕方近くにも拘わらず釣り客がいる状況である。



#### Q & A

Q：放流アユと遡上アユのどちらが大きくなるのか

A：どちらかが大きくなるという事はない。餌をどれだけ取れたかによる。

また、昨年は放流アユが殆どであったが、本年は天然アユが採れている。放流アユの方が成熟が早い傾向がある。

#### (2) 意見交換会

##### 【写真・動画を見ながら解説】

- ・地点の状況は、現場で説明したとおりである。河川を流れる砂は①ではかなり多く、平常時でも濁っている状況である。
- ・全体的に、本年度のアユは大きいが痩せているのが特徴であり、餌が十分ではない可能性がある。



左写真：太ったアユ



右写真：やせたアユ

<提供:山梨県水産技術センター>

## Q & A

Q：各地点で石が出ているという意味はなにか。

A：河床にある砂が流下し石が露出したか、上流から流下してきたかは不明であるが石成分が増えている。

Q：①付近と②付近の環境の境目はどこか。

A：不明である。

Q：近年砂利採取が減ってきているが、砂利採取の影響はあるか。

A：あると考える。

Q：近年山が荒廃しており、砂の流入が増えている。そのような影響はあるか。

A：あると考える。山間部の整備は困難だと思う、上流部の整備を行うことが望ましい。

O：堤で遡上調査を実施しているが、本年は過去最高の量（網に入った数が確認できないほど）であった。本日の説明の流れと合致している。

## （3）まとめ

前回の座学、今回現地で、アユにとって良いところ良くないところを確認していただいた。今後ワーキングを重ねて、アユにとっての良い場・悪い場の整理が出来ればと考えている。

また、それを踏まえて、取り組む内容の整理、役割分担の検討を進め、取組の計画として取りまとめていきたい。